

The Japan Association of Radiological Technologists  
ネットワーク・ノウ

# Network 12 / 1

2023 No.576

**JART**情報  
<https://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会  
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28  
三田国際ビル22階  
TEL. 03-4226-2211 FAX. 050-3153-1519

**Headline**  
from JART

## 2023年 JART 10大ニュース!!

### 1 将来を見据えたJART事業方針「JART-Vision2040」が公表される

本会は、2040年に向けた長期展望「JART-Vision 2040」の下で、診療放射線技師職の継続的な発展と国民から求められる新たな役割を獲得することを目指しています。これには放射線業務以外の領域への拡大や病院外での業務拡大が含まれます。中期的には、5年後の2028年までに組織率を70パーセントに引き上げることを目標とし、教員やマネジャーの入会を促進、会費の見直し、四病協や養成機関との連携を強化し、卒前・卒後教育の一貫性を図りながら、管理者の育成とリーダーの活用を進め、組織の強化を図っています。短期的には、オンラインコンテンツの充実と無料化、会誌の電子化、講習会や試験のオンライン化、新規入会システムの簡便化、若者向けの広報戦略の展開、勤続表彰の制定や会費免除の検討、マネジメント研修の見直し、事業のスリム化、委員会や分科会の見直し、学生告示研修の確立、ワクチン接種講習会の設立、理事会議題の見直し、事務局体制の強化と役員の業務定年制の検討、カスタマーハラスメント対策など、組織の即時の強化と効率化を目指しています。これらの一連の目標は、診療放射線技師会が現在と将来にわたって、そのメンバーと業界全体の発展に寄与するための戦略的な基盤を築くことを意図しています。

### 2 第39回JCRTが熊本市で開催され、改定倫理指針に基づく新たな演題区分が採用される

本会学術大会における演題登録までの流れについて、倫理委員会では以下の演題区分とフローチャートを策定しました。

演題区分については、今回新たに、カテゴリー分類を「研究」と「報告」に分けています。

2021年に「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」が新たに制定され、その後、個人情報保護法の改正に伴い、2022年3月に倫理指針の一部改正が行われ、基本的に人を対象とする研究は、倫理審査委員会の承認を得て行う必要があることから、学術大会の演題募集においても、倫理審査委員会の承認番号などを明記していただくことになりました。「研究」のカテゴリーはこれを受けてのものであります。

一方、症例報告や技術報告、日常の診療や業務改善、さまざまな提案などは、「報告」というカテゴリーで募集します。

また人を対象としないファントム実験などについては「研究」として、研究計画や結果の分析ができていない場合には「報告」として発表していただくこともご検討ください。

詳細は、本会誌2月号から掲載されている演題募集要項をご覧ください。

### 3

### タスク・シフト/シェアに対応する放射線検査およびSTAT画像所見報告の各種ガイドラインが完成

令和3年7月9日医政発0709第7号「臨床検査技師等に関する法律施行令の一部を改正する政令等の公布について」が発出され、診療放射線技師の業務として静脈路に造影剤注入装置を接続する際に静脈路を確保する行為が認められました。また令和3年9月30日医政発0930第16号「現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスク・シフト/シェアの推進について」において、血管造影・画像下治療において、術者である医師がカテーテルやガイドワイヤー等の位置を正確に調整できるよう、当該医師の具体的指示の下、血管造影装

置やCT等の画像診断装置の操作を行い当該医師に必要な画像を提示すること、また診療放射線技師が実施した検査画像に異常所見が認められた場合に、診療放射線技師がその客観的な情報について医師に報告することは可能であること、さらに画像誘導放射線治療において、診療放射線技師が医師の具体的指示の下、画像の一次照合を行い、照合画像から照射位置精度を確認した上で、放射線の照射を行うことは可能であるとされました。

こうした医師からのタスク・シフト/シェアを円滑に実施しつつ、安全かつ適切に取り組むため、厚生労働科学特別研究事業総括研究報告「診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士の業務範囲拡大のための有資格者研修の確立及び学校養成所教育カリキュラム見直しに向けた研究」では、実施する側面として関係団体と各追加予定行為の関係学会によるガイドライン等が作られることが望ましいとされています。

そうした背景から、本会は関連団体にご協力いただき、CTおよびMRI造影検査、血管造影・IVR、核医学検査を安全に行うための手引き、さらにSTAT画像所見報告ガイドライン、画像誘導放射線治療の臨床施行のためのガイドラインを作成致しました。

#### 4 オンラインによる新たな認定試験方式 (CBT) の運用が開始される

CBT (Computer Based Testing) は、コンピューターを使ったオンライン試験です。元々は海外で始まり、日本でも筆記試験の代替として普及しつつあります。特にコロナ禍での非接触が必要な状況下で、資格や検定試験においてCBTが推進されました。これにより、テレワークを行う企業や学校などでも採用が進んでおり、採用試験や模擬テストにCBTが用いられています。CBTでは受験の申し込みから試験実施、結果通知まで全てをインターネット上で完結でき、受験者はパソコンやタブレットを使用して問題を解き、スピーキングが必要な場合はマイクを使用します。これは従来の鉛筆と紙によるテストとは異なり、新しい世代の試験方式とされています。日本全国どの地域からも、アクセス可能な近隣の試験会場から受験ができますので、会員の皆さまの利便性が向上します。

#### 5 JART上田会長、JAMT宮島代表 理事会長、畦元衆議院議員、岸田 総理大臣と面談する

2023年6月29日(木)、本会上田会長と日本臨床衛生検査技師会(JAMT)宮島喜文代表理事会長は、畦元将吾衆議院議員に付き添われ首相官邸を訪問し、岸田文雄総理大臣と面談しました。

両会は強い協力体制の下で、国民医療への安心と安全の提供と、告示研修を推進していくことを報告しました。また上田

会長がチーム医療推進協議会の代表理事に就任していることも併せて報告し、本会が医療関係職種17団体と患者会3団体の取りまとめ役を担うことについても説明しました。畦元議員からは、今回発表された「経済財政運営と改革の基本方針2023(骨太の方針2023)」に記載のあった認知症の診断においても、アミロイドPETによる診断では診療放射線技師が、血液検査では臨床検査技師が貢献できるとの説明がなされました。

岸田総理には、お忙しい中にもかかわらず、真剣に耳を傾けていただきました。



#### 6 上田会長、チーム医療推進協議会 代表ならびに中央社会保険医療 協議会の専門委員に就任

チーム医療推進協議会2022年度第2回総会(2023年3月23日(木))において、上田克彦会長が代表に選出されました。チーム医療推進協議会は18の医療職団体と3つの患者団体が加盟しています。上田会長は、チーム医療の推進に向けてJARTも積極的に協力していくと述べています。またこれまでチーム医療推進協議会代表が中央社会保険医療協議会(中医協)の専門委員を務めてきたことから、第546回中医協総会(2023年4月26日(水))において専門委員に選任されました。中医協では週1回から2回の総会会議が開催され、医療政策に関わる内容について診療報酬を中心に議論されています。



#### 7 児玉副会長、ISRRT (世界放射線 技師会) 理事に就任

The 22<sup>nd</sup> ISRRT World Congress (第22回ISRRT世界大会)の開催に先立ち、2022年12月13日(火)・14日(水)にISRRTの評議員会(Council Meeting)が開催されました。ISRRTの評議員会は2年に1度、ISRRT世界大会に合

わせて開催される ISRRRT の最高決定機関です。

今回の評議員会では、ISRRRT 理事による各種報告から始まり、新たなメンバー国（ブルンジ・モルディブ・ベナン）の承認、Keeping radiographers/radiological technologists in good mental health and free from burnout、The role of Radiographers/Radiological Technologists using Dual Energy X-Ray Absorptiometry (DXA)、The Entry Level Competency Requirements for Therapeutic-Radiographers/Radiological Technologists の各ポジションステートメントの承認、WHO、IAEA、ISR、ICRP、ESR、ECR、RSNA との連携および共同作業の報告がなされました。そして最後に、2022年から2026年までの理事および委員の選挙が実施されました。

理事選挙では、日本・タイ・シンガポール・インドネシア・スリランカからの推薦を受け、児玉副会長が Asia/Australasia の Regional director（地域理事）に選任されました。任期は2026年の ISRRRT 世界大会までの約4年間です。日本からの理事選出は中村實 元会長以来24年ぶりです。



## 8 第31回日本医学会総会 博覧会に出展する!

2023年4月15日(土)から23日(日)まで、東京国際フォーラムならびに丸ノ内・有楽町エリアで第31回日本医学会総会が開催されました。この学会は4年に1度開催される国内で最も大きい医学系学会の一つであり、各団体・学会が協力しております。日本診療放射線技師会も文部科学省、厚生労働省、日本医師会、日本看護協会、日本薬剤師会他、多数の組織と共に後援として参画しております。開会式では天皇陛下や総理大臣の来場を賜り、ごあいさつを頂いております。また医学会総会では、一般市民の方を対象にした博覧会が催されました。

本会も4月20日(木)から23日(日)まで、東京国際フォーラムにおいて日本ラジオロジー協会(JRC)、日本医学放射線学会(JRS)、日本放射線技術学会(JSRT)、日本放射線科専門医会・医会(JCR)他と一緒に「みえる・わかる・なおる放射線医療」と題して専用ブースを設置し、出展と放射線に関する説明を行いました。本会の展示は、日本診療放射線技師会の歴史や東日本大震災でのサーベイ活動、恐竜化石の

CTスキャンなどのポスター展示と、診療放射線技師の業務に関するビデオ展示を行いました。また上田会長を筆頭に副会長・各理事がブルーのスクラブを着用し、来場者に放射線に関する説明を行いました。非常に多くの一般市民の方々にご来場いただき、盛況のうちに終了致しました。



## 9 佐賀県との「放射線被ばくの防止に関する包括的相互協力協定書」が締結(調印)される

本会と佐賀県および一般社団法人佐賀県放射線技師会は、①原子力災害に係る被ばく防止対策に関すること②医療現場における患者および医療従事者の被ばく防止対策に関すること③放射線被ばくに関する知識の普及に関すること——について相互協力協定を締結しました。この協定は、鳥根県および一般社団法人鳥根県診療放射線技師会との相互協定、ならびに関西広域連合および関西地域を中心とする地区技師会との相互協定に続く協定締結となります。

今後、佐賀県の原子力災害においては、避難住民の放射線サーベイ、甲状腺モニタリング、被ばく相談など、診療放射線技師の専門性を生かした支援を行うとともに、平時においても佐賀県民に対する放射線被ばくに関する知識普及や、佐賀県放射線技師会の災害関連事業などへの協力を行ってまいります。今後も自治体、地区技師会、本会との相互協力が進められることを期待しています。

## 10 堀住新局長 就任する

上島隆事務局長の任期満了による退任に伴い、2023年7月1日付で堀住雄策ほりずみゆうさく氏が後任の事務局長として就任することとなり、7月3日(月)に辞令交付式が執り行われました。



# 第39回 日本診療放射線技師学術大会 開催される (ハイブリッド開催)

2023年9月29日(金)から10月1日(日)まで、第39回日本診療放射線技師学術大会が熊本城ホールで開催されました。

3年にわたる新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから初めての学術大会の開催でした。とはいうものの、感染がなくなったわけではありませんので、感染対策には十分に配慮した上での開催となりました。ただし、さまざまな規制は緩和され、今回は第30回東アジア学術交流大会(EACRT)も併催され、海外から大勢の来賓や参加者が来日されました。本大会は公益社団法人日本診療放射線技師会の主催、一般社団法人熊本県放射線技師会の共催により「タスク・シフト/シェアに伴う業務拡大を推進しよう～復興の地からはじまる技術革新～」をテーマに掲げ、ハイブリッドでの開催となりました。採択演題は415演題、EACRTの演題は20演題、会場参加登録者数は1,641人、10月1日時点でのオンデマンドを含めた総登録者数は2,026人でした。



西小野昭人大会長

29日(金)の開会式では、江藤芳浩副会長による開会宣言の後、上田克彦会長の鐘打の音が会場いっぱいに響き渡り、開会が告げられました。上田会長による主催者あいさつ、西小野昭人大会長によるあいさつがあり、続いて厚生労働大臣 武見敬三さま、文部科学大臣 盛山正仁さまからのご祝辞が司会より代読されました。ご来賓からは、熊本県健康福祉部健康局長 野中眞治さま、熊本市健康福祉局長 津田善幸さま、公益社団法人熊本県医師会会長 福田稔さま、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会代表理事長 宮島喜文さまからごあいさつを頂き、一般社団法人日本画像医療システム工業会会長 山本章雄さま、公益社団法人日本放射線技術学会代表理事 石田隆行さま、公益社団法人熊本県看護協会副会長 永野智子さま、一般社団法人熊本県臨床検査技師会会長 田中信次さまの来賓紹介が行われた後、世界放射線技師会会長 Napapong Pongnapang (ナパボン・ポンナパン) さま、世界放射線技師会副会長 Tan Chek Wee (ターン・チェック・ウィ) さま、世界放射線技師会理事 Edward Chan (エドワード・チャン) さま、大韓民国放射線士協会会長 Jung Hwan



山本章雄さま 石田隆行さま



野中眞治さま 津田善幸さま 福田 稔さま 宮島喜文さま 永野智子さま 田中信次さま

Han (ハン・ジョン・ファン) さま、中華民国医事放射学会常務理事 HUNG, YI-CHI (ホアン・ヤージュ) さま、マカオ診療放射線技師会会長 Cora NG (コラ・ン) さま、タイ診療放射線技師会会長 Sala Ubolchai (サラ・ウボルチャイ) さま、ベトナム診療放射線技師会会長 Thai van loc (タイ・バン・ロック) さま、世界放射線技師教育財団理事 Robert Shen (ロバート・シェン) さまが紹介されました。その後、内閣総理大臣 岸田文雄さま、衆議院議員 金子恭之さま、衆議院議員 畦元将吾さま、参議院議員 本田顕子さまからの祝電が披露されました。また本部功労表彰(代表:中村勝さま)、50年永年勤続(代表:稲富孝治さま)、30年永年勤続(代表:甲斐裕治さま)、学術奨励賞(代表:秋田裕介さま)、さらに社会貢献を称賛する江間賞(代表:山下泰生さま)、JART 職員勤続表彰(藪井健太郎さま)の皆さまの栄誉をたたえ、表彰が行われました。そして児玉直樹副会長より閉会が告げられ、開会式は終了しました。



本部功労表彰 JART職員勤続表彰(代表:中村勝さま)(藪井健太郎さま)

企業展示オープニングセレモニーでは、沖川隆志副大会長の開会の辞に始まり、日本画像医療システム工業会 山本会長、上田会長、西小野大会長によるあいさつとテープカット



海外からの来賓の方々と共に



テープカットの様子



企業展示

が行われ、田上真之介副大会長の閉会の辞をもってセレモニーは終了しました。企業展示は、日本画像医療システム工業会ならびに多くの協賛企業の協力の下、さまざまな展示が行われました。

初日の企画として、委員会・分科会・関連学会によるシンポジウムや下肢静脈超音波検査実習、JART-JSRT 合同企画として「学会発表のススメ～学術研究に関する倫理規程～」、企業さまの協賛によるランチョンセミナーなどが行われました。また開会式後には永年勤続表彰式が執り行われました。

2日目の30日(土)は、委員会・分科会・関連学会によるシンポジウムが行われ、上田会長による「告示研修後の診療放射線技師の在り方と展望」と題した会長講演、画像等手術支援分科会による3D画像作成ハンズオンセミナー、KART企画からモーニングセミナーやシンポジウム、企業さまの協賛によるランチョンセミナーなどが行われました。

最終日の10月1日(日)は、委員会・分科会・関連学会によるシンポジウムの他、放射線サーベいのハンズオンセミナー、KART企画よりモーニングセミナーや教育講演、さらに「目標を達成するための思考力」と題して、株式会社フットアスの代表で元サッカー日本代表の巻誠一郎氏による市民公開講座などが行われました。

閉会式は、児玉副会長による開会の辞に始まり、示説発表

優秀賞の表彰式が執り行われ、愛媛大学医学部附属病院 船田里奈さま、国際医療福祉大学熱海病院 森田裕介さま、東邦大学医療センター大森病院 跡部俊さまが表彰されました。その後、上田会長から主催者あいさつ、西小野大会長からあいさつがあり、上田会長により閉会を告げる鐘が鳴らされました。鐘は熊本県実行委員会から次期開催県である沖縄県実行委員会へ引き渡されました。来年の第40回日本診療放射線技師学術大会は日本診療放射線技師会と日本放射線技術学会との合同開催の第1回日本放射線医療技術学術大会であり、プロモーションビデオが放映された後、富田博信実行委員長からあいさつがありました。続いて上田会長から熊本県放射線技師会および大会実行委員会に感謝状が贈呈され、実行委員会への感謝状は緒方隆昭実行委員長が代表して受け取りました。最後に、江藤副会長による閉会の辞をもって、3日間にわたる学術大会は幕を下ろしました。

今回の学術大会に参加いただいた皆さま、企業展示・協賛セミナーなどへご協力いただいた業界各社の皆さま、各都道府県技師会の皆さまに、心よりお礼を申し上げます。

来年度の第40回日本診療放射線技師学術大会は第1回日本放射線医療技術学術大会として、2024年10月31日(木)から11月3日(日・祝)までの日程で沖縄コンベンションセンターにおいて開催され、オンデマンドも2024年11月12日(火)から12月9日(月)までの期間で開催される予定です。



示説発表優秀賞  
(船田里奈さま)

示説発表優秀賞  
(森田裕介さま)



KART企画シンポジウム



ランチョンセミナー



3D画像作成ハンズオンセミナー



情報交換会



次期開催県への鐘の引き渡し



第1回日本放射線医療技術学術大会  
富田博信実行委員長

## 令和5(2023)年度中間監査 実施される(ハイブリッド開催)

2023年10月25日(水)午後2時より、本会事務所とWeb参加のハイブリッド形式で監査監事(小川利政監事、小川清監事、梅本啓監事)による令和5(2023)年度中間監査が開催されました。

開催に当たり上田会長より、コロナが5類になったことでさまざまな事業が対面で行われて、各地の学術大会などに執行役員が参加している旨が報告されました。

次に園田理事より、事業総括と上半期の庶務報告と事業報告が行われました。報告後に監事から、各事業についての内容の確認と生涯教育の一貫性と統一性について質問されました。

続いて江端理事より、令和5(2023)年度会計の中間報告が行われました。監事からは事業に対する収入と支出の差や、福利厚生支出が0になっており、職員の福利厚生がなされていないことについて指導がありました。

最後に監事より、事務局の業務日誌を作成し、記録することについての指導がありました。

出席者は上田会長、富田副会長、児玉副会長、江藤副会長、江端業務執行理事、園田理事。顧問税理士の代理人である上島美紀税理士、および事務局からは堀住事務局長、加藤課長などの関係者が出席し、約2時間にわたって質疑応答が行われました。

## 2023年度 第5回理事会 開催される (Web併催)

2023年10月7日(土)午後2時より、2023年度第5回理事会が鈴鹿医療科学大学でWeb会議システムを併用して開催されました。理事会開催に先立って、2022年度会員物故者に対してJART記念館前に設置されている顕彰碑への入魂式が執り行われました。

理事会の冒頭に上田会長は、熊本城ホールで開催された第39回日本診療放射線技師学術大会ならびに第30回東アジア学術交流大会の開催・運営に対する感謝の言葉と、活気のある大会であったと所感を述べられました。

主な議題は、「第1回日本放射線医療技術学術大会における協賛費」「組織図の変更と委員会の委員選任」「業務改善推進委員会機能の人材育成委員会への統合」「ガイドライン(STAT画像所見報告、核医学検査安全、画像誘導放射線治療の臨床施行)」「学生向け告示研修」「基礎技術コースと応用技術コースのe-ラーニングの会員の無料化」などでした。

上田会長からは、次年度、日本放射線技術学会と合同開催する学術大会について企業協賛費の設定を検討し、提案された額面が日本放射線技術学会、日本画像医療システム工業会にも確認済みであることの説明がありました。組織図については、江端業務執行理事就任に当たり、担当の再編成を行ったことの説明がありました。業務改善推進委員会については、本会としての活動である意義を明確に示すことが難しくなったため、今後は人材育成委員会に統合し、2024年度からは人材育成委員会として事業計画を検討していく提案がありました。審議の結果、いずれも全会一致で承認されました。

江藤副会長からは、「生命予後に関わる緊急性の高い疾患の画像(STAT画像)所見報告ガイドライン」について、当初は「STAT画像報告ガイドライン」としていたが、日本医学放射線学会から「STAT画像所見報告ガイドライン」として承認を得たこと、12疾患についての所見報告態勢と巻末に報告例の付記があること、全ての診療放射線技師が対応で



きるような内容となっていることなどの説明がありました。また核医学検査安全ガイドラインや画像誘導放射線治療の臨床施行のためのガイドラインに加え、現在、CTおよびMRI造影ガイドラインも検討中であることの説明がありました。これらの公開日については日本医学放射線学会と調整し、全てがそろってから一斉公開するとの補足説明がありました。審議の結果、いずれも全会一致で承認されました。

菊地理事からは、学生向け告示研修の流れについて、2025年3月卒業予定で旧カリキュラムの学生に向けた告示研修を国家試験に間に合うようなスケジュールで実施し、都道府県(診療)放射線技師会で監督者を派遣する旨の説明がありました。また川守田理事からは、基礎技術コースと応用技術コースのe-ラーニングについて、受講する会員の無料化の提案がありました。本会が中期目標としている会員数の増加のためにも、e-ラーニング費用の無料化を継続的に実施したい旨の説明がありました。審議の結果、いずれも全会一致で承認されました。

報告事項としては、地域理事、各委員会などから36項目の報告がなされ、資料が共有されました。最後に、園田理事より今後のスケジュールが確認され本理事会は終了しました。

詳細は、2023年度第5回理事会議事録(抄)をご参照ください。

## 令和5(2023)年度入魂式 執り行われる

2023年10月7日(土)午後1時30分より、令和5(2023)年度の入魂式が鈴鹿医療科学大学JART記念館前に設置されている顕彰碑で執り行われました。入魂とは、ご逝去された会員の魂を本会顕彰碑に注ぎ込む行事です。初めに、園田理事から令和4(2022)年度の物故会員43人全員の氏名が読み上げられました。続いて上田会長からのお言葉があり、黙とうをささげるとともに、会長、副会長、理事らが顕彰碑に献花・ご焼香を行い、厳粛な雰囲気うちに閉式しました。改めまして、ご逝去された会員の方々に謹んで哀悼の意を表します。

また日頃から顕彰碑を管理していただいている鈴鹿医療科学大学の先生方、ならびに一般社団法人三重県診療放射線技師会役員の皆さまに、感謝申し上げます。



## 第39回日本診療放射線技師学術大会 分科会企画

# タスク・シフト/シェアの推進『頭頸部癌のIGRT』 開催報告

【名称】タスク・シフト/シェアの推進 『頭頸部癌のIGRT』  
～臨床的意義から読み解く位置照合のポイント～

【開催日時】2023年9月30日(土) 9:00～10:30 (90分)

【座長】小野委員・伊藤委員

【演者・講演タイトル】

1. 広島大学病院 放射線治療科 村上 祐司 先生  
「頭頸部癌強度変調放射線治療計画におけるTipsとPitfalls ～IGRT一次照合のために～」
2. 広島大学病院 診療支援部 放射線治療部門 奥村 拓朗 先生  
「頭頸部癌に対するIGRTのポイント～広島大学病院の取り組みを中心に～」
3. 総合討論

本シンポジウムでは『頭頸部癌のIGRT』をテーマとし、タスク・シフト/シェアの一環である「一次照合」について、「患者位置照合における位置変位量が許容範囲内にあるか判定する行為」を医師の具体的指示の下、診療放射線技師がどのようにアプローチすべきか議論しました。



医師：村上 祐司 先生

村上先生は、2022年11月に改訂された「IGRTガイドライン2022」を解説され、医師の指示に従うだけでなく、意図を理解して対応すべきと述べられました。特に、解剖学や放射線治療

計画を理解した上で、照射位置の許容範囲を正確に判断してIGRTの一次照合を行い、異常時は即座に医師に報告できる態勢や信頼関係を構築することが重要であると強調されました。



診療放射線技師：奥村 拓朗 先生

奥村先生からは、広島大学病院のIGRTワークフローについてご紹介いただきました。頭頸部領域は可動域が多軸であるため、自作スペーサーを用いた固定具作製をはじめ、セットアップや位置照合の手法を

技師間で統一することでIGRTの精度向上が図れると述べられました。一次照合のレビューについて、医師を含めたIGRTカンファレンスを定期的を実施することで医師と技師が照合方法について議論し、スタッフ間で情報共有が行える理想的な態勢を構築されていたのが印象的でした。

総合討論では、会場からIGRT時の再セットアップの判断基準について医師と技師の立場から意見が求められ、即座に医師に報告できる態勢と、セットアップ精度を向上するためにスタッフ間での情報共有の重要性について、改めて議論が行われました。

今後、タスク・シフト/シェアの推進に当たり、医師を交えた議論と情報共有がさらに重要になると考えます。放射線治療分科会では、引き続き一次照合をテーマにした企画を計画する予定です。  
(放射線治療分科会)

## 第39回日本診療放射線技師学術大会 放射線治療分科会主催 ハンズオンセミナー

# 「体幹(骨盤)部の固定具作製を極める」開催報告

第39回日本診療放射線技師学術大会期間中の2023年9月30日(土)、放射線治療分科会主催によるハンズオンセミナーを開催しました。昨年に引き続き、前立腺IMRTにおける最適な固定具作製フローを検討することを目的として実施し、九州地域を中心に10人のご参加がありました。

参加者には事前課題として、固定具作製の自施設のフロー作成に取り組んでいただき、セミナー当日は自施設のフロー紹介を行った後、グループ間でフローの共有を行い、実際に吸引式固定具、シェルの作製を順次行いました。作製途中に参加者およびファシリテーター間でいろいろな意見交換が行われ、改めてさまざまな固定具作製手法があることが再認識されました。今回のセミナーで、参加者の皆さまが新たに得た知見を自施設のフローに取り入れることにより、患者に優しく

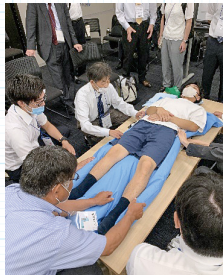


固定精度が高い固定具作製改善の一助になればと思います。

事後アンケートの結果、セミナーの評価として「とても良かった」との回答がほとんどであり、参加者の満足度が非常

に高かったようです。また「初めは緊張したが、アットホームな雰囲気、楽しく学ぶことができた」「ざっくばらんに話もできた」との好意的な意見が多く、ハンズオンセミナーの開催意義は十分にあったと考えます。

このハンズオンセミナーは、事前フロー作成に取り組むことにより自施設の疑問点や聞きたいことが整理され、少人数制で行うことにより固定具作製に対する活発なディスカッションにつながっていると思われます。次年度以



降は、頭頸部の固定具作製ハンズオンセミナーも行うことを計画しています。

(放射線治療分科会委員 純真学園大学 久家 教幸)

## 2023年度 診療放射線技師基礎技術講習 (会場型) 「一般撮影」開催報告

一般社団法人栃木県診療放射線技師会  
教育委員 佐藤 宏

2023年10月8日(日)午前9時20分から午後6時まで、栃木県総合文化センター 特別会議室で、診療放射線技師基礎技術講習「一般撮影」を開催しました。日々の診療において必要な基礎知識・技術の再認識と、さらなるレベルアップを目的として、一般撮影に携わる方はもちろん、未経験の方を対象に募集し、39人(会員35人、非会員4人)にご参加いただきました。栃木県だけではなく関東圏からの申し込みがあり、本講習会への関心の高さを感じることができました。

装置に関する科目では、学校の教科書の内容を復習しました。臨床現場に立つ診療放射線技師だからこそ、原理・技術が臨床にどう生かされるか確認しながら学習することができました。

整形外科に関する科目では、診断能の高い画像を提供するためには、解剖を理解し、得られた画像を整形外科医師とディスカッションすることが重要であると痛感しました。言い換えれば、それらを実践しながら業務に従事することは、大変やりがいのある領域であることを再認識しました。

私たち診療放射線技師は、目的・患者情報を理解しながら撮影していますが、ポジショニングや撮影台への移乗動作で



禁忌肢位となることがあり、予期せぬインシデントを招く恐れがあることも学習できました。

本県では、一般撮影を十数年ぶりに開催しました。講師選定や資料作りなど、開催するまでさまざまな苦労を感じましたが、たくさんの受講生が集まってくださり、かつ終始講義に耳を傾け熱心にメモを取る姿に頼もしさを感じることができ、受講生・講師ともども、達成感のある講習会となりました。

## 2023年 秋の叙勲受章者 —おめでとうございます—



瑞宝双光章

猪森 崇 (徳島県)  
高橋 利春 (茨城県)  
前田 富茂 (香川県)  
茶島 光浩 (石川県)

上遠野 和幸 (神奈川県)  
長田 孝光 (富山県)  
村上 誠一 (山口県)  
木戸屋 栄次 (福井県)

鎌田 啓史 (宮崎県)  
馬場 敏 (香川県)  
若松 佳司 (長崎県)  
川瀬 滋人 (京都府)

菅野 佳秀 (徳島県)  
堀江 好一 (埼玉県)  
森 光一 (富山県)

瑞宝単光章

大野 淳 (神奈川県)

(敬称略・順不同)

INFORMATION



INFORMATION

第1回 第1回日本放射線医療技術学術大会 (1st JCRTM)  
 第40回日本診療放射線技師学術大会 (40th JCRT)  
 第52回日本放射線技術学会秋季学術大会 (52nd Autumn Scientific Congress of the JSRT)

## 沖縄への道 Go To OKINAWA

実行委員 長野 篤  
 (一般社団法人沖縄県放射線技師会 会長)

### 学術大会開催のお知らせ

第40回日本診療放射線技師学術大会を、第52回日本放射線技術学会秋季学術大会と合同で、「第1回日本放射線医療技術学術大会」として、2024年10月31日(木)から11月3日(日・祝)までの4日間、沖縄コンベンションセンターで開催致します。

本大会の大会長はJART 上田克彦会長、JSRT 白石順二前代表理事が、実行委員長はJART 富田博信副会長、JSRT 奥田保男副代表理事が務められます。

初めてのJARTとJSRTの合同での学術大会ということもあり、大会テーマを「ゆいまーる 診療放射線技術の共創」として、大会の運営に当たっていくことになりました。

**ゆいまーる**とは、沖縄の方言で「助け合う」「共同作業」「一緒にがんばろう」といった意味を持ちます。本大会を診療放射線技術学の発展、診療放射線技師の進化を共同で議論し、新たな価値を創造できる場に準備していければと思います。

なぜ、沖縄での開催なのだろうと思った方もいらっしゃると思いますが、両大会長が議論を進める中、大会ポスターが物語っている通り、JARTのシンボルカラーのブルーとJSRTのシンボルカラーのグリーンが融合して、沖縄の美しい海を想像されて沖縄開催が決まったものと、沖縄県放射線技師会一同、理解しております。

本大会は初めての試みであり、ある意味、非常に重要かつ大変とは思いますが、JART、JSRTおよび沖縄県放射線技師会、JSRT九州支部が一致団結して、より進化した大会になればと思っておりますので、ハイブリッドでの開催ではありますが、現地での参加を心よりお待ちしております。

それでは、あと11カ月しっかりと準備してまいります。

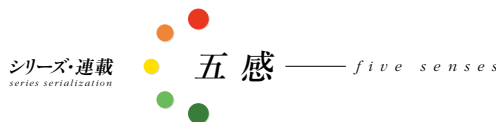


ブルーとグリーンを配した大会ポスター



39th JCRT 熊本会場での沖縄大会PRブース。睦元代議士も激励にお越しになりました。

# 不気味の谷



最近、公開された飲料水のCMにAIタレントが起用され、そのクオリティーから「不気味の谷」を超えたと話題になっている。さてこの「不気味の谷」とはなんだろう？

1970年にロボット工学者の森政弘氏が発見、提唱した「不気味の谷」現象のことである。人間に似せた造形や所作のロボットを人間に見せると、まったく人間味のない機械的なものから人間らしさが高まっていくに連れて、好感や親しみが向上していくことが知られている。しかし、ある一定以上に人間に近づいたロボットは、一転して違和感や嫌悪感、不気味さを感じさせるようになり、親近感が急激に低下する。ここからさらに人間に近づけていくと違和感は解消され、以前にも増して高い親しみが得られるようになる。これを横軸に擬人性、縦軸に親近感としてグラフに図示すると、高い擬人性のゾーンに突如として谷型の落ち込みが見られるため、「不気味の谷」と呼ばれるようになった。この現象は人形や3次元コンピュータグラフィックス(3DCG)、仮想現実(VR)などでも起きるとされているが、科学的な厳密性を巡って長年にわたって議論的となってきた。その後、現象自体は確からしいことが分かっ

てきたが、詳しい理由や機序などは不明である。

医療や介護の世界にもロボットやAI技術は活用され始め、生成AIの普及も目覚ましい。「不気味の谷」現象は、身近になってきたものの正体がよく分からないときに不安や恐怖、嫌悪感を覚えるために起こるとい説がある。ロボットのように外見のないAIに対して「不気味の谷」が存在するか不明だが、皆さん、受け入れることには寛容だと感じる。仕事がAIに代替されると話題になり存在も身近になれば、AIに負の感情を抱く人がいるかもしれない。それはまさにAIに対する「不気味の谷」現象であろう。しかし、よく分からないから「不気味の谷」が現れるのならば、対象を理解すれば、負の感情は薄れ「不気味の谷」を超えやすくなるだろう。

肝心なのはAIなどの技術や特徴、問題点などをよく理解した上で最大限活用し、それによりできた余裕をAIにできない対人対応、つまり患者や医療スタッフなどをよく観察し、関係性を深め、信頼を得ていくことがわれわれの進むべき方向だと考える。そうすれば「不気味の谷」などたやすく超えていけるのではないだろうか。(文責：富田 伸生)

## 12月・1月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

- 放射線機器管理地域研修会： 福岡 2024年1月13日(土)
- 画像等手術支援認定講習会： Web開催 2024年1月14日(日)
- Ai(死亡時画像診断)症例報告会： Web開催 2024年1月20日(土)

※このご案内の公開時に、定員に達して申し込みができない講習会・セミナーがある場合がございますのでご了承ください。

- 告示研修(実技研修)/業務拡大に伴う統一講習会/診療放射線技師基礎講習 基礎技術コース(会場型)： 本会ホームページの「ニュース・お知らせ」またはJART情報システム(JARTIS)をご参照ください。

### [e-ラーニング(ストリーミング方式)]

- 告示研修(基礎研修) 2026年3月31日(火)午後11時59分まで申し込み受け付け ※お申し込み成立の日から告示研修終了まで何度でも視聴いただけます。
- 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針オンラインセミナー 2027年3月31日(水)午後11時59分まで申し込み受け付け ※お申し込み成立の日からセミナー終了まで何度でも視聴いただけます。
- 認定資格の取得を目指す在宅講習受講生の募集 ・ラダーレベル3 2023年7月10日(月)午前0時から12月15日(金)午後11時59分まで申し込み受け付け ※各認定資格試験終了日(2024年1月)まで何度でも視聴いただけます。
- Ai認定講習会(e-ラーニング) 2023年10月4日(水)午前0時から12月19日(火)午後11時59分まで申し込み受け付け ※お申し込み成立の日から2024年1月27日(土)まで何度でも視聴いただけます。
- 認定資格失効者講習会(在宅) 2023年12月22日(金)午後11時59分まで申し込み受け付け
- 放射線診療に従事する者に対する診療用放射線の安全管理のための研修(在宅) ※お申し込み成立の日から2024年1月27日(土)まで何度でも視聴いただけます。
- オンラインセミナー(在宅)：本会ホームページの「ニュース・お知らせ」またはJART情報システム(JARTIS)をご参照ください。

### 事務所案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。  
ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日~1月3日)は執務致しません。